「しあわせ」の約束

エプロン通信員　末吉　郁子

今年は結婚式への出席が続いた。祝い客に囲まれた主役のふたりをみると、いつも感動する。ずっと幸せを守っていってほしい、と願う。

ところで、男性はよく「幸せにする」とパートナーに告げたりするが、あればどうか？お互いで協力しあって幸せになろう、というのはわかるが、誰かに幸せにしてもらえる程、人ひとりの人生は軽いものではないと思う。

恋愛をしているカップルにとって結婚はある種のゴールかもしれないが、私は今ひとつの節目だと感じる。そのゴール地点で何か言いたい、伝えたいのはわかるが「あなたを幸せにする」などとは簡単に言わない方が誠実だと思う。共に生活を始めるとなると、その先でいろんな出来事があり、それを共に解決したり、あるいは逃げたり、相手の対処法によっては株が上がって見直したり、落胆したり・・・。

わが家で赤ちゃんのいる生活が始まった頃、初めての育児にマタニティブルーになってしまった私。誰も助けてくれない、たったひとりでこの子の世話をしなきゃいけない、と悟ったとき、「結婚は人生の墓場」という誰かの言葉が頭に浮かんだ。

その言葉をはじめに言った人の意図はともかく、それぐらいの覚悟がいるものなんだと私は受けとり、「さぁ、これからだ」と覚悟を決め、おなかの辺りからもりもりと意欲がわき起こり、元気になったものだ。

「おかん」になった今、まだ母親7年生だけれど、私は家族を幸せにできるのかも知れない、と思う。けれど、いつもいつもたくましい、ポジディブな母、そして妻なわけではもちろんない。そんな時こそ、支えとなるパートナーであってほしい。

大切な人を幸せにしたいと思っている男性方へ、本当の気持ちは言わなくてもきっと伝わります。言葉を発するなら、ぜひ誠実であってください。そして楽しい家庭を家族みんなで築いてください。

茶(ちゃー)ぐわーゆんたく 66

マジムンの多い季節～魔除けの行事あれこれ～

夏も終わり、過ごし易くなってきました。旧暦8月の十五夜のお月見で夜を楽しむ季節ですが、8月は沖縄では古くから、魔物(マジムン)の多い月であると考えられていました。

この時期、屋敷の四隅や門に、サン（ゲーンともいう。ススキと桑の枝葉を束ねたもの）が差さっているのをよく見かけます。これは、市内で旧暦8月11日に行われる魔除けの〝柴差(シバサシ)〟という行事です。サンを差すことで、悪いものの侵入を防ぐ意味があります。また、その前日の10日には、字(あざ)で牛を屠(ほふ)り、肉を各家庭に分配して食べ、魔物や疫病を払うカンカー、シマクサラシと呼ばれる行事があります。字(あざ)宜野湾では、現在では牛を屠ることはありませんが、郷友会の行事として区内数カ所で拝みを続けています。

また、これらの払いの行事の前後に、ヨーカビーという行事がありました。ヨーカビーには火の玉が見えるといわれ、戦前は青年達が夜、見晴らしのいい場所に集まり、火の玉を探したそうです。戦前の新城ではヨーカビーの夜、大きな木に青年達が4、5人座れる物見台を作り、火の玉がどこから上がるのかを観察していたそうです。

このように、8月には魔物を払い、その侵入を見張る行事が行われてきました。十五夜に普天間と大謝名で行われる獅子舞も、集落の厄を払う行事です。今年は、これらの行事の持つ意味を意識して、秋の夜を過ごしてみてはいかがでしょうか。

▲柴差行事のサン

『宜野湾市史』への問い合わせ
教育委員会　文化課
☎893－4430